

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている、C:あまりできていない、D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
心豊かにいっぱい遊ぶ子	やってみよう! やってみよう!	子どもたちはやってみよう、やってみようと思える遊びに出会い、意欲的に遊びを楽しんでいる	・「今日は〇〇して遊ぼう!」と生き生きと登園し、支度を終えるとともにやってみよう遊びで遊び出している ・子どもたちから「やってみよう」という声が聞かれ、友達と同じ遊びを自分もやりたいと意欲的な姿がみられる	A	A	・自己評価でAやBの自己評価をしているが、私はすべて概ねAだと思っている	・「やってみよう」「こうしてみよう」などの思いがあらわれてきたので、環境の再構成が必要
		子どもたちは様々な体験の中で考え、試し、工夫して遊んでいる	・園庭では、可動式遊具を組み合わせ、いろいろと試している姿がみられる ・遊びの中で「こうしてみよう!」と自分なりに考え、試している。チャレンジしてみようとする気もちが芽生えてきた	A	A	・園評価は、先生方が来年度がんばりたいところを来年度の課題とと考えてるようにし、目標を立てていくとよい	・子どもたちへの次の一手「今後何が必要になっていくのか」を保育教諭が読み取るができるよう一緒に遊んで子どもたちの思いを捉える ・「明日も遊びたい」という思いをつなげる手立てに工夫が必要である
		子どもたちは自分の思いを伝えたり、相手の話を聞いたり、注目したりしながら、みんないっしょにありのままの姿で育ちあうことを喜んでいる	・思いを相手に伝えられる子が多く、子ども同士で意見を出し合って遊びを進めている姿が多くなった ・相手の思いを聞いたり、受け入れたりすることが難しい時には、保育教諭が繰り返し仲介し、お互いの良さを伝えている	B	A		・相手の話を聞くことが楽しいと思えるよう、話を聞く姿勢や保育教諭の話の話し方のバリエーションを増やしていく

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	子どものつづやき、視線等の意味を探り、一人一人の思いに共感・肯定し、自己肯定感を高める声かけをする	・言葉で表現しない部分を意識して、子どもの心情を探ることを心掛けた ・「〇〇を見つけたんだね、すごいね!」等、子どもの目線に合わせて肯定的な言葉かけをした	B	A		・保育教諭が肯定的に捉えるようになり、多様性を尊重するようになる ・がんばったプロセスをほめ、チャレンジする気持ちを大切に
		安心できるこども園を目指し、子どもたちの生活リズムの多様性に配慮し、早番から遅番まで安心して過ごせるよう適宜、見直し改善を行う	・休み明けや週末は特に体調の変化に配慮しながら過ごす ・早・遅番への移動時間は子どもたちの様子を見て変えている ・子どもが「遊びたい」と思った時にすぐに出せるようにする ・午睡の時間もそれぞれのタイミングで寝られるようにしている	B	B	・ヒヤリハットを共有できるようになったその先へ、具体的な手立てで、他にやることを一人一人考えて実行することが大切だと自身の経験からも感じている	・報告・連絡・相談を大切にし、安定した園生活を送ることができるようにしていく ・早・遅番の遊びの充実にも目を向けていく
		(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもの発見、疑問、喜びの出会いを捉え、やってみようが叶う環境作りをしている	・子どものつづやきや表情、姿など細かく捉え、環境を整える ・「やってみよう!」を叶えるため、職員間で情報共有を行い、今の子どもたちに必要な環境を用意している ・遊びを取っておくことで、次につながっている	B	B	
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	継続的な体調管理と感染症予防を行う。日々の小さな怪我とヒヤリとした場面を打合せで報告し、原因と改善を職員間で共有する	・玄関に感染症のボードがあり、わかりやすい ・日々の打ち合わせで小さな怪我やヒヤリを報告し合っている。出られない職員も打ち合わせノートで確認できるようにしている ・受け入れ時の職員が体調確認や前日の様子を聞くようになり、担任に伝えている	A	A	・若手育成のための「リラックマの会」はとても有効な研修だと思われる。来年度も続けていくとよい。学校でも真似してみたい	・ヒヤリを共有しても同じことが繰り返されることがあるので、再検討し、その次の手立てを考えていく ・今後もヒヤリハットの情報を皆で共有できるようにする
		3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	基本的な生活習慣が身に付くよう、家庭と連携し、個々に応じた経験の積み重ねを行う	・子どもの発達、年齢に合った身の回りの支度や衣服の着脱、排泄等生活に必要な経験を登降園時に伝え、家庭と連携しながら行っている ・家庭と園で連携しながら子どもの生活を支えている	B	B
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	月1支援児会議を行い、計画的に支援児活動を進める。また、個々の発達、特性を職員間で共有し支援に活かす	・アンパンマンの会の実施、支援児会議で意見交換を行った。個々の特性・発達・援助についての話し合いが充実した ・どの職員にも視覚的にわかりやすい支援児のドキュメンテーションや絵本を作成した	B	B		・情報共有することで、全職員が同じ方向で支援できていると感じる ・アンパンマンの会の内容を、参加しない職員にも公開する方法を探る
5 組織運営	(1)組織体制の充実	園務分掌を中心に、計画的に見通しをもって企画・発信を行う。職員同士の語り合いを大切にしながら、園運営を進める	・風通しのよい職場環境なので、とても円滑に業務が進んでいた ・園務分掌を中心に計画を立て、見通しをもって取り組めるスケジュールを可視化していった ・分掌担当の職員同士で話し合いを進め、改善点を出している	A	A	・地域の未就園児の会を開催しているが、小学校でiPadやパソコン教育が導入されていると知って、買ってあげたという保護者いた	・先の見通しを持てるように、全体の活動に参加していく ・今後も担当以外の分掌でも職員間で連携しながら協力し合い、園運営に努めていく
6 研修	(1)研修体制の充実	子どもの学びや育ちを多面的に捉え、10の姿で分析をする。職員も子どもたちとやってみようを一緒に楽しむ	・事後研修で遊びの様子から10の姿について話し合いを共有した。事後研修よりでは全職員に伝え、共通理解している ・クラスだけでなく季節ごと10の姿を取り入れながら保護者に伝えている	B	A	・近隣の学校との連携は、コロナ前と同じにすることがよいのかどうかも検討すべきだと考えている。現在の文科省の教育を実施するには、やりたい授業数の確保だけでなく、昔から行っていた園児と小学生との交流や連携も新しい生活科を開拓していくことが必要である	・「10の姿」を日誌に記入し、可視化して具体的に日常に落とし込めていく ・様々な立場の職員が共通理解できるように公開保育の学びを事後研修よりとして発信していく
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	安全に遊べる乳児園庭作り。幼児は自ら遊具、玩具、用具を選び、遊び出せる環境を作る。道具の並べ方、見え方に気を配り、片づけやすい工夫をする	・可動式遊具が増え、工夫して遊んでいる。遊び出しやすく、片づけやすいよう工夫を貼るなどしている ・片づけの見学を保育教諭と子どもと一緒に進めるとよい ・乳児園庭を明るい雰囲気にするため、砂場のDIYを行った	B	B		・子ども自身が用具を自分たちで出し入れできる片付け環境を作る ・片付けの見学を行い、定期的に片付けの環境を再構成していく ・他園を参観してよいと思ったことを積極的に取り入れていく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	懇談会・参加会等を実施し、園の教育・保育を知ってもらい、遊びを可視化して家庭へ発信し、子どもが遊びの様子を保護者に伝え、遊びの続きを家庭と共有するようになる姿が見られる	・親子遠足や参加会、親子で遊ぼう会を設け、子どもたちの遊ぶ姿や園生活の様子を知らせることができた ・ドキュメンテーションの作成やその日の活動の様子などをエピソードを交えて保護者に伝える中で、家庭でも園での遊びが再現されているという話を聞くことが増えた	B	A		・おたよりをカラーで伝えられる機会があったことがよかった ・空き容器の協力を今後も続け、子どもたちの作品への思いを保護者と共有できるようにしていきたい
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	10の姿を通して子どもの学びを発信する。先の見通しを持った指導計画を立て、交流できる機会を作る	・近隣の高校や支援学校との交流ができ、クイズなどで互いに楽しんだ。小学校との交流もできた ・公開保育を行い、近隣の小学校や公立こども園、私立園にも参加したとき、子どもの学びを発信すると共に交流を深まった	B	A		・今後も小学校との交流や情報交換を図り、地域の実情に合わせてできることからつながっていく ・他園への公開保育の参加は来年度も続けたい
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	近隣園との交流や地域の様々な人との交流、情報交換を行う。地域にある公園、広場を園活動に活かす	・おしゃべりサロンでは、講師を招き、ふれあい遊び等を行った。多数の参加があった ・近隣園の公開保育には必ず誰かが参加できるようにした。自分の担当学年の他園の様子を全員が見ることができた	B	B		・少しずつ新規の交流の場を増やしていく(老人ホーム・交流館などのS型サービス) ・一時保育の充実、地域の要望に応えられるようにする